

企業事例集

1

食料品製造業

P. 1

2

食料品卸売業

P. 22

3

食料品小売業

P. 29

4

外食産業

P. 38

取組みのカテゴリ

労働安全教育

はさまれ・巻き込まれ対策

転倒対策

表彰制度

企業情報

所在地：千葉県

従業員：390名

背景

- 労働災害が頻発し、労働基準監督署より指導を受けたこと
- 指導をきっかけに外部機関での教育を受講し、社内の労働安全管理体制強化の必要性を痛感したこと

取組内容

1. 【従業員の安全意識向上のための教育】

- 受講率 100%達成を目標に安全教育を推進しています。
- まず、指導者の教え方にバラツキが出ないよう、教育内容の標準化を進めました。それを基に毎月1回、職場ごとに安全教育を実施しています。労働災害実績やヒヤリハットで講じた対策の都度、内容に反映しています。
- 結果的に指導者は教えやすく、受講者は分かりやすくなりました。こうした取り組みの継続で受講者だけでなく、教える側も再度学ぶことができ、安全の意識が身に付きました。受講率は、当初の85%から95%まで向上しています。

安全教育記録表（製品課）

作成日：2020/04/01
改定日：2020/10/01

業務内容： 作業②（製造機器）

受講日:

受講者:

教育者：

作業に関する事項

- 高速スライサー**

 - ①原料肉投入入口のコンベアの動き込みに注意する
 - ②刃の周辺を清掃する際は必ずヘルメットを使用する

カップスケー

 - ①階段の昇降の際は手摺りを握むこと
 - ②スライサーきたらお肉を回転する際、腰を捻らないように注意する

③緊急停止ボタンの位置確認

フレーカー

 - ①投入口の上から手を入れない
 - ②お肉焼出口から手を入れない
 - ③緊急停止ボタンの位置確認

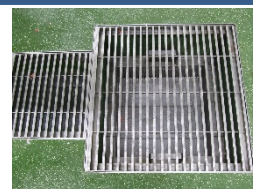
2. 【非定常作業削減のための設備管理基準】

- 労働災害につながりやすい機械の修理や調整作業を減らすために、機械ごとに管理基準を作成しています。
- 当社の機械・設備にはすべて「近接スイッチ」が付いていますが、非常停止ボタンの作動確認も管理基準に含まれており、必ず点検しています。
- 機械点検は、教育も兼ねて指導者と作業者がペアで実施しています。手順や方法だけでなく、機械の特性などを確実に若手に伝達しています。

[illegible]

3. 【滑りにくい床やグレーチングの採用】

- ヒヤリハット活動で職場内の危険を従業員に挙げてもらい、対策を順次実施しています。
- 転倒は段差表示、防滑靴の支給、滑りにくいグレーチングや床材の変更、改修などの対策を行いました。防滑靴は時々、靴底がすり減っていないか確認しています。
- また、筋力向上の自己啓発のため参考書籍の貸出を行っています。



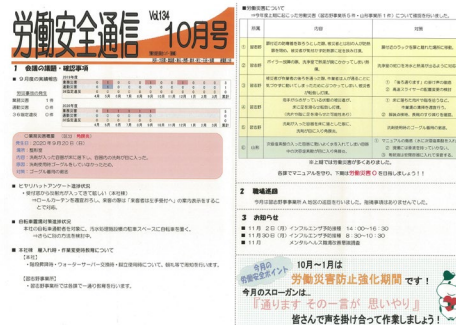
4. 【非常停止ボタンの移設、インターロッキング】

- リスクアセスメントではさまれ・巻き込まれ災害にリスクの高い危険源を抽出しました。
- 作業中に巻き込まれやすいポイントから非常停止ボタンに手が届かない場合は、ボタンの位置を移設しました。
- 巻き込まれる恐れがある機械には、センサーなど手や体を出すと自動停止する仕組みになっています。



5. 【表彰制度】

- 毎年8月に、安全スローガンの募集をしています。スローガンに選出されたら、自社商品のお肉1kgを進呈していて、たくさん提出してもらえるようになりました。
- スローガンと併せてヒヤリハットも提出してもらうようにしたことで、多くの職場のリスクを集めることもでき、安全について従業員が考えるいい機会になっています。



安全の成果

- 教育による安全意識の向上と、客観的な評価による安全の取組みに対するモチベーション向上で、労働安全活動が活発化し、労働災害は減ってきている。

副次的効果

- 工場見学した生協職員や生協組合員から労働安全の取組みを評価され、従業員のモチベーションが上がった。
- 生協職員は、工場の取組みを営業活動でPRし、継続的に売上が増えている。
- 工場見学した組合員がSNSなどでPRした結果、企業イメージが向上している。
- 職場環境や社内風土が良くなり、離職する人が減っている。
- 設備管理の取組みで、設備故障件数が減り、生産性や歩留が向上した。

取材年月：2020年10月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒防止対策

腰痛防止対策

企業情報

所在地：東京都

従業員：140名

背景

女性が重量物を持ち上げたり運んだりすることに違和感を覚え、労働災害防止を含めてより良い職場に改善する活動を始めました。

より良い職場にするために、従業員全員にアンケートを行い、仕事の改善希望をヒアリングしたところ、重量物の扱いや業務負荷についての意見が多かったことから、腰痛防止対策を始めました。

取組内容

1. 【腰痛を防止するための作業改善】

- まずスライスした食肉を入れるコンテナに積む量を制限することで、1つあたりのコンテナの重量を軽減させました。
- 次に昇降台車を導入し、コンテナの積み下ろし作業の負担を軽減させました。



2. 【労働安全のための5S活動の実施】

- 床についた食肉の脂をきれいに清掃することを実施しました
- 昼休みに入る前の10分間を5Sタイムとして、全員で床を清掃しています
- 活動を始めた当初は、作業を優先する従業員が多く、全員参加になりませんでした。そこで5Sタイムを知らせるためのブザーを導入し、5Sタイムの間、音楽を流し、清掃に充てる時間であることを周知した結果、全員参加が加速度的に進み、スムーズに実施できるようになりました



安全の成果

- 腰痛になる社員・アルバイトはいなくなりました。また作業負担によるポジションチェンジを希望する従業員もいなくなりました。
- 5S活動を実施して約5年になりますが、転倒災害はゼロになりました。

副次的効果

- 作業環境が改善され、重量物の扱い方や業務負荷が軽減されたことにより、1～2年で離職する人はここ数年で激減しました。また女性も働きやすい環境になったことで女性の定着率も上がりました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒対策

はさまれ・巻き込まれ対策対策

火傷対策

企業情報

所在地：三重県

職員：4名、利用者(障害をもたれた方)

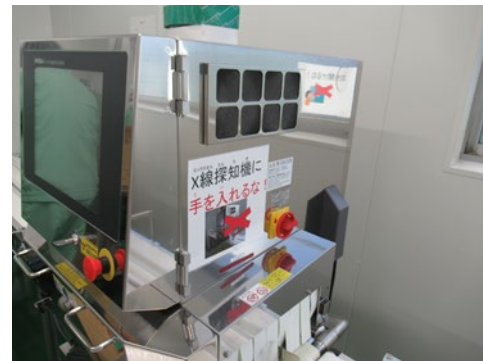
背景

- 安定的に事業を継続することで知的障害者に就労の場を提供し、地域貢献するため
- 所在地の労働安全協会の会合に参加し、異業種の安全の取組みを聞いて

取組内容

1. 【危険個所から退避するための声かけと表示】

- 4工程ある生産工程にそれぞれ職員が分かれ、危険個所から退避する声かけを利用者に実施しています。また、視覚的にも危険個所が分かるように、注意喚起の表示や床の色で識別しています。
- 水濡れして滑りやすい箇所は、滑りにくい床材を施工しました。



安全の成果

2018年7月の開設以来、労働災害は0件です。

副次的効果

- 利用者の安全作業の環境が整備されたことで定着率が向上した。
- 職場の安全作業の環境が整備されたことで、利用者のご家族に安心感を与えている。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労災情報の共有

安全パトロール

企業情報

所在地：東京都
従業員：3,482名

背景

乳製品製造会社として、労働安全が最優先であるとの考えのもと、全社的に取組を実施してきた歴史があります。近年はさらにブラッシュアップをかけて先進的なシステムの構築に取り組んでいます。

取組内容

1. 【類似災害を防止するための労災速報の共有】

- 類似災害を防止するため、社内の文書管理システムに労働災害の項目を追加し、労災発生から原因追及、対策の実施までを一元管理しました。不安全な状態、不安全な行動は何だったのか？を報告書に明記すること、4Mの切り口でも分析を実施して、徹底的に原因追究をしています。システム上には、労災の型別に注意点をまとめたリンクが貼っており、現場管理者はこれを見て、従業員に教育を実施ができます。



2. 【従業員の安全意識向上に繋がる安全パトロール】

- 安全の鐘活動という名目で、工場内の作業員とコミュニケーション強化を図りながら安全パトロールを実施しています。実際に鐘を鳴らすことにより、安全意識が高まる効果があり、労働災害の防止に繋がっています。



安全の成果

- 前期と比較して、今期は労災事故が約4割減少傾向にあります。特に同じ型の労災事故に関しては、減少傾向にあります。

副次的効果

- ESGデータ集に労働災害の度数率と強度率を載せ、労働安全対策への取組状況を公表していることで、社会的信用に繋がっていると考えています。

取材年月：2020年10月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロール

労働安全教育の工夫

はさまれ・巻き込まれ対策

腰痛対策

墜落・転落対策

企業情報

所在地：神奈川県

従業員：148名

背景

- 実際に労働災害が発生したため
- 労働安全活動が形骸化しており、取組みにも熱が入っていなかったため

取組内容

1. 【トップマネジメントによる安全パトロール】

- 当社神奈川総合工場における安全パトロールに本社から社長に参加していただいています。
- パトロールでは、客観的かつ厳格に指摘頂き、迅速な対策検討とフォローアップを行っています。
- トップの率先垂範の活動で、安全最優先の意識付けができましたし、パトロール自体が緊張感のあるものになりました。また、費用の掛かるリスク対策の判断も早くなりました。



2. 【安全意識向上のための労働安全教育】

- 企業としての安全の考えと従業員の安全意識向上のため、安全教育に力を入れています。新入社員に対する安全の教育は、入社2日目から開始し、入社月に安全パトロールに参加させ、危険個所を発表させ、発表した個所は、会社として具体的に対策を講じています。
- 年1回、半日ラインを止めて全従業員への安全教育を実施しています。
- 外部講習を受けた後、自分の職場にどう展開するかを課題にして発表させています。
- 遊休設備を使って、巻き込まれの体感教育を行い、機械に安易に手を出させない意識を身に付けさせています。



3. 【本質安全化のための工学的対策の推進】

- 設備管理担当を製造部署へ異動させ、設備の保全や改造などを製造部員にOJTで教育してもらっています。製造部員のスキルが向上し、非常停止ボタンの移設やインターロック機能が低コストで迅速に行えるようになりました。設備保全の意識が向上し、労働災害につながりやすい故障復旧などの非常作業を減らすことができました。
- はさまれ・巻き込まれ対策として、不安全な状態・作業の注意喚起の表示には限界があり、工学的対策に繋げて欲しいという思いから、「見えないゴリラ」という映像を使った教育を実施し、理解が進みました。



- 見えないゴリラ
あるものに集中していたら容易に見えているものに気付かないというもの

4. 【マット、作業台、作業方法の改善】

- 立作業の工程が多く、女性や高齢労働者も多いので楽な姿勢で作業できるよう作業台や疲労軽減マットを導入しました。
- 対象となる工程を抽出し、準備、設置を順次実施しましたが、マットは段差が転倒災害の要因となったため、高さ調整の工夫を行いました。腰痛対策はもちろん、疲労によるふらつきを予防し、転倒対策にもなりました。
- 廃棄物を入れる袋は重量があり、腰痛の原因になり得るため、重量制限の表示を行い、注意喚起を促しました。さらに、改善を進め、袋のサイズを規定重量の容量のものに変更しました。取扱い回数は増えますが、腰痛の原因となる作業を無くしました。
- 若手従業員が実施していた出荷作業をベテラン従業員が実施することになったので、カゴ車に積むフレコンバックの上限を5袋減らし、積み込み時の持ち上げる動作を無くし、腰痛や転落のリスクを低減しました。



5. 【印字機の変更】

- 印字機で使用しているインクを有機溶剤を使用しないインクに変更し、リスクを軽減しました。

6. 【危険個所の注意喚起表示】

- 高所作業時は、保護具の着用を徹底させるため、赤く表示して遵守意識の喚起と見落としを無くす工夫をしています。



安全の成果

- 様々な労働安全の取組みにより、不慮災害を含めて連続無災害700日を継続しています
- 非定常作業（設備の故障復旧や調整作業など）の削減
- ヒヤリハット件数の増加、従業員からの労働安全に関する教育ニーズの増加

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

「H・M O作戦」により挟まれ・巻き込まれ事故撲滅へ

取組みのカテゴリ

挟まれ・巻き込まれ防止対策

KYT

転倒防止対策

企業情報

所在地：栃木県
従業員：154名

背景

2018年に、挟まれ・巻き込まれ事故ゼロを目指す運動（工場内では、挟まれ(Hasamare)・巻き込まれ(Makikomare)をゼロ(0)にする作戦の頭文字をとり「H・M O作戦」とネーミング）を全社的にスタートさせて、さらに労働安全取組を強化しました。

取組内容

1. 【挟まれ・巻き込まれ事故防止のためのカバー設置】

- まずはモデルラインを選定し、リスク箇所のリストアップをします。その後対策の実施・運用し、他のラインに水平展開しました。安全性とスピード感を重視して作戦を実行しました。



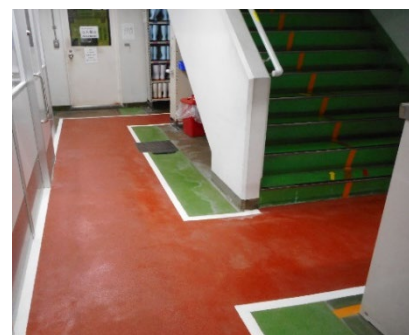
2. 【安全意識向上のためのKYTの実施】

- KYTの実施頻度を月1回から週1回に変更し、活動を強化しています。KYTの内容がマンネリ化しないために、各自その週のヒヤリハット事例を必ず1事例以上持ち寄り、内容が充実するように工夫しています。



3. 【増加傾向にある転倒を防止するための対策】

- まずは、転倒リスクのある箇所のリストアップをします。その後、床面の段差対策を実施して、歩行帯も明確にしました。特に転倒のリスクが高い高齢者には朝礼等で注意喚起も併せて行っています。



安全の成果

- 2018年に「H・M 0 作戦」を開始してから、労働災害ゼロを継続できています。

副次的効果

- 挟まれ・巻き込まれ対策でカバーを実施したところ、異物混入のリスクも無くなり、食の安全にも繋がっています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロール

労働安全教育の工夫

はさまれ・巻き込まれ対策

腰痛対策

墜落・転落対策

企業情報

所在地：埼玉県

従業員：230名

背景

- 「人を大事にする」社風から、製造業として労働安全は当然という考えがあるため
- 多品種少量化の製品戦略から労働集約的なモノづくりで、労働安全の取組みは必然的であるため

取組内容

1. 【危険源抽出のためのヒヤリハット活動】

- 記入用紙と投書箱を準備し、ヒヤリハットしたことを全従業員に投書してもらいます。この他、E S 調査でも現場の意見を抽出しています。集めた情報は、安全衛生委員会で優先順位を決めて、極力対応するようにしています。書きやすさ、提出しやすさを向上させるため、やり方を毎年見直しています。

職場で起こったヒヤリ・ハット 報告書

みなさんの職場で起こっていること、ヒヤリとしたこと、ハットとしたこと、また近頃現場の危険などの気づきなどを何でも記入して下さい。書き出せば問題ではないです。これにより、当社の安全対策に役立て、安心して働くための環境づくりを目指します。よろしくおねがいします。

1. 事故の概要
(簡明)

いつ 発生、または 気づいたか	どこ で	誰 が	何 を	どう なったか (原因と結果)

2. どのような対策がとられたのか、気づきや改善の方向性、有効性、そのほか記入して下さい。

対策実施の経緯	対策・経過と効果	対策完了の時期	その他

2. 【目的別委員会の設置】

- 社内にテーマ別に13の委員会を設置し、そのうちの一つに安全衛生委員会があります。委員会は、幅広い階層から選出され運営しています。委員会は、各年、全従業員の約半数が所属するため、委員会の役割認識度は自然と高くなり、委員ではない従業員も活動に積極的、協力的な風土になりました。

3. 【安全カバー、非常停止装置】

- ヒヤリハットなどから抽出された危険箇所は順次、対策を行っています。元の米菓設備は、労働安全の危険箇所が多かったことや、工場が狭く、コンベアのレイアウト改善の必要性もあったため、工務担当者の育成を進めました。結果的にメーカーの制約を受けずスピーディー対応できました。特に回転部や駆動部の安全カバーの取付や非常時の停止ボタンの設置を進めています。



4. 【作業を楽にする作業台、ジャッキ台車の改善で腰痛対策】

- 当社には、一人一研究という活動があり、従業員が年間1件、アイデア出しから、治具の確認、実運用まで行い、成果発表しています。
- 一人一研究で、労働安全に関連した改善も進んでいます。左の写真は、作業台の高さを調整できるように改善した事例です。右の写真は、重量物をジャッキで昇降できるように改善した事例です。この改善で、作業が楽になり、腰痛対策に繋がりました。
- どちらの改善も女性のパートナー社員が取り組んだ成果で、製作は、工務担当が会社にあるもので作ってくれたので、低コストで実現できました。



副次的効果

- 安全の取組みだけではないが、マスコミなどで紹介され知名度が向上しました
- 労働安全の取組みも含め、働きやすい会社という噂が近所に広がり、従業員募集の応募が増えた

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

フォークリフトの安全対策

外部委託業者の安全対策

内部監査

墜落・転落対策

企業情報

所在地：茨城県

従業員：166名

背景

- 労働災害をきっかけに、従業員の安全を守れなければ、食の安全も守れないという意識の高まり。
- 所在地の労働安全協会の会合に参加し、異業種の安全の取組みを聞いて。

取組内容

1. 【ルール遵守の意識付け教育】

- 労災原因の大部分がルール不遵守だったため、まず監督者の安全意識向上のため、取組んだ安全対策を全員、必ず月1回の安全衛生委員会と安全への取組み発言の会で発表させました。監督者の意識が変わると部下へそれが展開され職場の意識が変わりました。

2. 【フォークリフトの接触事故予防の改善】

- フォークリフトの労災事故が過去に発生していたため、後退だけでなく前進でも音が鳴るようにしました。さらに、リミッターをつけて速度超過できないようにしました。

3. 【外部委託業者の労働災害を予防する注意喚起】

- 輪留めをしないドライバーへ当社の安全の取組みを伝達し、繰り返し輪留め徹底の声かけを実施しました。
- さらにトラックヤードに標語ポスターを貼り、注意喚起を行いました。その結果、今は100%輪留め設置が継続しています。



4. 【安全対策促進のための内部監査】

- 当社基準の内部監査員資格を持つ従業員が職場を監査し、指摘、改善案の提案まで行い、改善につなげています。



5. 【重大災害を防止する教育の工夫】

- 回転体や刃物を使用する工程で、新人からベテランまで定期的に教育しています。
- 不安全行動をさせないために、スクエアストレート教育という悲惨な災害を映像で見せる方法を採用しています。

6. 【危険な高所作業の対策】

- ローリー車のはしごを上って生乳の受入検査を実施していましたが、安定した足場を確保するためステージを制作。ローリー車を横付けし、安全性を高めました。
- 洗浄のために高所で実施していたストレーナーの取外し作業を、配管を切り回して低所に移動し、高所作業を廃止しました。



安全の成果

- 安全意識が高まり、「次から気を付けよう」から再発防止の徹底になっています。
- 軽度のケガの撲滅まではもう少しですが、重大災害はゼロが続いています。

副次的効果

- 安全の取組みでライン停止回数が減り、生産性向上に寄与しています。
- 就活生に安全の取組みをPRし、入社希望が増えています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

近年は特にヒューマンエラー起因による労災の防止を強化

取組みのカテゴリ

転倒防止対策

高年齢労働者の労働災害防止

企業情報

所在地：栃木県
従業員：1,416名

労働安全に関するコミュニケーション

背景

2013年小山工場の稼働が始まった年に比較的多くの事故が発生したことをきっかけに、まずは半数以上を占めていた設備起因（挟まれ・巻き込まれ）の事故を無くすために、半年間かけて設備を集中的に改善しました。その後、社内に安全衛生課を立ち上げることで、ヒューマンエラーによる労災事故の撲滅にも力を入れて活動を実施しています。

取組内容

1.【安全長靴の管理を強化することによる転倒防止対策】
転倒の防止を目的として、安全長靴の管理を徹底しています。靴底の減りが激しいまま使用することが転倒の原因になってしまいます。安全長靴の置き方を工夫し、靴底が見えるように掛けて置くことで、靴底の減り具合が見えるようになり、交換時期が遅くならないように注意しています。



2.【高齢者の安全確保のための転倒対策】
■ 高齢者の事故は重篤化に繋がりがやすい為、特に安全対策を強化しています。50歳以上の従業員を対象に体力測定、転倒防止対策を実施しています。反復横跳び・目を閉じて片足立ち・開脚測定を実施して、結果を基に個別に転倒防止指導を実施しています。



3.【従業員の安全意識向上のための安全8カ条策定】
■ 入社と同時に安全8カ条の内容と注意点を動画で学んでいただきます。
■ 安全8カ条：声掛けヨシ、停止確認ヨシ、操作手順ヨシ、保護具ヨシ、整理整頓ヨシ、運搬手順ヨシ、歩いて移動ヨシ、進行確認ヨシ
■ 外国語のバージョンの動画も作成し運用しています。

安全8ヶ条唱和

- ①声掛け、ヨシ！
- ②停止確認、ヨシ！
- ③操作手順、ヨシ！
- ④保護具、ヨシ！
- ⑤整理整頓、ヨシ！
- ⑥運搬手順、ヨシ！
- ⑦歩いて移動、ヨシ！
- ⑧進行確認、ヨシ！

安全確認。

ゼロ災でいこう、ヨシ！

安全の成果

- 労災件数は工場稼働初年度に比べ半数以下に低減しました。

副次的効果

- 安全対策をしっかり実施していることが評判となり、求人に対しての応募は増加傾向にあります。また、アルバイトの定着率も高水準を維持できています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全衛生方針

緊急事態対応

企業情報

所在地：愛知県

従業員：390名

労働安全に関するコミュニケーション

腰痛防止対策

労働安全教育の工夫

外国人労働者の労働災害防止

背景

- 毎年、休業4日以上労働災害が発生するため
- 他拠点と比べて労働安全の取組みが遅れていたため

取組内容

1. 【トップマネジメントのコミットメント】

- 何よりも従業員の安全が一番であり、安全第一をトップマネジメントが常に言い続けています。提出されたヒヤリハットに目を通し、安全衛生委員会にも参加するなど積極的に労働安全の取組みに関与しています。労働安全対策には、お金が掛かるものもありますが、そうした考えから積極的に投資しています。今、業界に先んじてISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）を認証取得することを目標に取組んでいます。

労働安全衛生方針 Occupational safety and health policy

当社は、以下に基づき労働安全衛生マネジメントシステムの継続的な改善を図り、労働安全衛生活動に対して協力していくことを約束します。
We commit ourselves to continuously improve our occupational safety and health management system and be engaged in occupational safety and health activities under the following initiatives.

一、労働安全衛生マネジメントシステムを活用し、継続的な労働安全衛生水準の向上を目指します。

We will make a full use of our occupational safety and health management system so as to continue to heighten the occupational safety and health standard in the workplace.

一、労働安全衛生関係法令ならびに、その他の要求事項を遵守し、事業場の労働災害の防止に努めます。

We will comply with all laws, regulations and other requirements related to occupational safety and health and aim to prevent industrial accidents in the workplace.

一、危険源を除去し、労働安全衛生リスクを低減する目的・目標を設定し、計画的な実行と見直しを行い、労働安全衛生マネジメントシステムの継続的改善に努めます。

We will aim to remove hazard sources, set our objective and goals to reduce the risks to occupational safety and health, and continuously improve our occupational safety and health management system.

一、全従業員に対して意見を聴いて労働安全衛生に関する教育及び意識向上活動を実施します。

We will conduct activities to provide education to all employees so as to raise their awareness of occupational safety and health.

2. 【工場一斉の安全教育で従業員の安全意識向上とリスク低減】

- 労働災害を撲滅するためには、従業員の意識を生産性第一から安全第一に変える必要がありました。そこで、2019年から工場の稼働を1日止めて労働安全教育を行う「安全の日」を設けました。
- 具体的には、10個のプログラム（KYT、危険体験、備蓄品使用訓練、非常口スタンパラー、インフラ復旧訓練、放送訓練、机上訓練、地震体感、消火訓練、普通救命）を実施しています。
- 労働安全に関する会社の姿勢を示すことができましたし、従業員も真剣に取り組んでくれて、やって良かったという意見が多くありました。教育の効果を客観的に計るため、従業員アンケートを実施したところ5点満点で4.2点でした。アンケート結果をもとに内容を改善して、今後も継続していく予定です。

3. 【危険体感学習】

- 恐怖体験を実感させることで安全の理解度を高めるため、「安全の日」に何種類かの体感学習を実施しました。
- 具体的には、指に見立てた割りばしが粉碎される状況を体験する機械の巻き込まれ体感、圧延機に引き込まれる力を体感する挟まれ体感、滑りやすい床の体感、指差し呼称の有効性体感などを準備しました。
- 体感学習用の機材は、専門業者に依頼し、レンタルしました。
- 従業員の理解度も高まり、満足度調査でも高評価でした。



4. 【自動昇降機で作業改善と腰痛予防】

- 当社では、小集団活動を継続して実施していますが、労働安全教育を積極的に進めてきた結果、安全をテーマにした改善が増えてきました。
- 工程によっては、重量物を取り扱う作業があり、体への負担が大きいものもありました。
- 小集団活動の成果事例として自動昇降機を使った重筋作業軽減の改善ができました。
- 「楽だくん」という機械で約30万円の投資でしたが、腰痛予防に効果を発揮しています。



5. 【用途に応じた13種類の手袋】

- 当社では、労働安全、食の安全、作業性の向上などで用途に応じて13種類の手袋を使い分けています
- 具体的には、耐熱用、清掃用（床用などさらに細分化）、製品に接触する作業用、切創予防用などで備品倉庫に識別できるよう5Sで管理を行っています。
- 見た目は違いますが、ルール遵守されているか分かりやすくするために手袋の色で識別できる工夫をしています。
- ルールに従った運用で、労働安全はもちろん、食の安全にもつながりました。今は、ルール遵守がかなり定着しています。

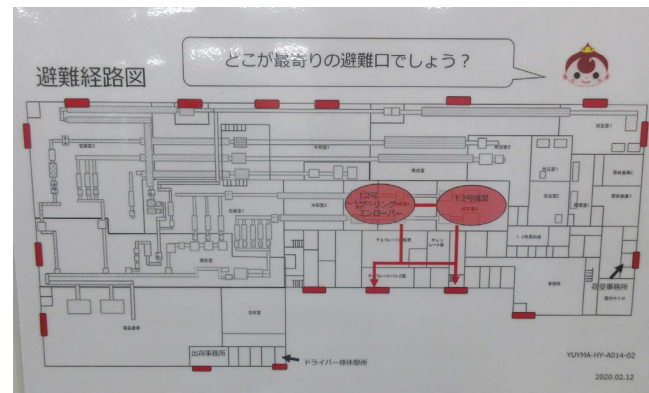
工場内 使用手袋

「製品」	「清掃・上履」	「清掃・下履」
「耐熱用」 （食品用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）
「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）	「耐熱用」 （清掃用）



6. 【緊急事態対応】

- 労働災害や火災発生時など、緊急事態で適正な判断、動きができるように様々な取り組みを実施しています。
- 具体的には、緊急事態発生時のマニュアルや対応手順の作成、これらをもとに模擬訓練を実施して検証、訓練後の手順の不備、見直しを確認し、手順を繰り返し更新しています。マニュアルは、1ページ1手順にし、写真や図を多く、文字を少なくして見やすさを配慮しています。
- 理解度を高める工夫として「非常口スタンプラリー」というイベントを実施しています。最寄りの非常口の認識向上につながっています。



7. 【労働安全活動の見える化】

- 当社では、労働安全活動を活性化させるため安全衛生委員会を8つの部会に分けて活動しています。
- 広報部会は、入社3年目までの労災発生リスク軽減を目的に、高卒2年目社員が所属し、労災事案を分析し、私たちならこうするという内容を安全新聞にまとめてもらい、掲示しています。
- ヒヤリハット部会は、従業員全員、毎月提出を義務化し、提出書類は掲示して見えるようにしています。提出書類は工場長が全てに対策、指示についてコメントし、提出した人が対策の結果を記録しています。掲示されているので対応したかどうか分かるのでやり残し防止に繋がっています。
- 高リスクのものは、リスクアセスメント委員会にかけられ、費用をかけ本質的対策を行っています。
- 対策は成果に応じて換金及び社販に使えるユーラクポイントに還元されるシステムにして、活性化のための工夫しています。



8. 【外国人派遣労働者の安全対策】

- 当社では、外国人派遣労働者を雇い入れています。言葉や文化の違いで認識にギャップが生じないように対策を行っています。
- 入社時に日本語能力テストを実施して、コミュニケーションの問題点を把握し、配属するライン長に接し方などを伝達しています。
- 職場内の労働安全方針や社内の安全喚起の表示は英語を併記し、外国人でも分かるようにしています。
- 安全教育の資料は、英語に翻訳したものを準備、実施しています。また、理解度を高めるために映像の教材も活用して、知らない、分からないを無くす工夫をしています。
- こうした取組みもあり、外国人従業員のケガは発生していません。



安全の成果

- トップの方針、安全教育の取組みで従業員の安全意識が向上している。
- リスクアセスメントに関するスキルが向上している。

副次的効果

- 安全の取組み含め、自ら課題を出し、解決し、部門間で連携する力がついてきた。
- 製品特性や機械・設備について従業員が深く知ることができ、作業方法の改善やスキルアップにつながり、毛髪クレーム低減や、生産性が向上している。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

高齢労働者の労働災害防止

ヒヤリハット

企業情報

所在地：東京都
 従業員：1,046名

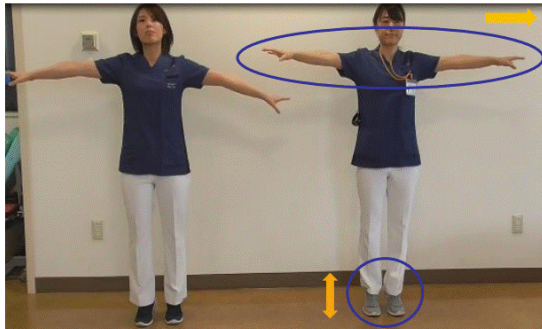
背景

労働災害防止の取組を長年継続して実施してきましたが、ゼロ災をなかなか達成できない状況にありました。そこで、労働災害の型を検証すると、転倒災害が常に最も多く、特にヒューマンエラー起因の事故撲滅の取組を考える必要がありました。そこで、中高齢従業員を対象に体力測定を実施したところ、身体の硬さとバランスに問題があり、転倒リスクが高い状況であることが判明、その対策を講じることとなりました。

取組内容

1. 【躓き転倒を防止するための業間体操】

躓き転倒防止と健康保持を目的として、柔軟性と身体バランスを強化する「業間体操」を新たに開発し、実施しています。特に工場で働く高齢者の転倒災害対策として始めましたが、今では管理部門を含めて全社的に取り組んでいます。取り組みを定着・維持させるために、閉眼片足立ち大会を開催するなどし、体操の効果を実感させるとともに、優秀者を表彰することで、従業員のモチベーションアップを図っています。



2. 【従業員からヒヤリハットを吸い上げるための気がかりメモ】

■ 従業員の安全意識の向上と、職場での危険箇所の把握を目的として、「気がかりメモ」の記入を年に数回記載してもらっています。作業中のヒヤリハットだけでなく、休憩室や動線などあらゆる場所での出来事を幅広く情報を収集することができました。従業員の安全意識の向上に繋がっています。

安全衛生気がかりメモ

年 月 日

所 属

氏 名

【概 要】

いつ	年	月	日	午前	午後	時頃
どこで						
どんな作業の時						
どんな事が気にかかったか						

安全の成果

■ 本年度、転倒による重大な事故は発生していません。また業間体操の効果として、バランス力のアップ、健康保持に繋がっている実感があるとの話をいただきます。特に高齢者の方から好評をいただいています。

副次的効果

■ ヒューマンエラー撲滅の取組の一環として、5S活動を徹底した結果、作業手順が効率化されて生産性の向上に繋がりました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロール

労働安全教育

企業情報

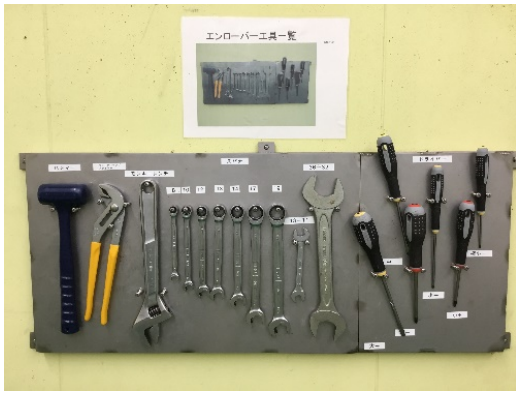
所在地：東京都
従業員：3,907名

背景

1 0数年前、多くの労働災害が発生したことから、労働安全衛生の改善活動を強化するため、労働局長を経験した方に顧問に就任していただき、製造現場のパトロール、工場幹部や従業員の意識改革を実施することといたしました。
また、代表取締役会長からのトップメッセージ「労働安全衛生標語『愛』」を発信し、労働安全衛生に対する取組みの一層の浸透・強化を図りました。

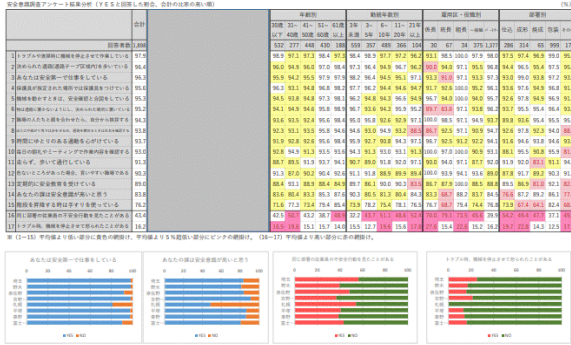
取組内容

- 1. 【安全で効率的な美しい職場にするためのパトロールの実施】
■ 各事業所で顧問による労働安全衛生の講義を実施し、工場幹部や従業員の安全衛生に対する意識向上と活動のポイントの理解を深めました。機械災害の撲滅の他、特に5Sについての点検を強化し、モノの置き場、置き方の指導や事故の原因となるような危険源の除去・対策につなげています。
- 5S指導例：「洗い場の床は濡れるのが当たり前で、どう掃除するかを考える」のではなく、「そもそも濡らさないためにどうするかを考える」→シンクを深くするなどの工夫。



2. 【安全意識レベルを把握するための調査】

- 労働安全衛生に関する意識の現状把握を目的として従業員の安全意識調査を実施し、年齢、勤続年数、雇用区分、部署による傾向の把握と問題点の抽出に努めました。また、意識調査と同時に、部署内の不安全行動の実態も調査しました。その結果、勤続年数の浅い方だけでなく、役職者やベテラン社員にも不安全行動が見られることが分かり、役職者やベテラン社員に対して安全最優先であること、自身が模範となる行動を取ることを指導しました。安全衛生への意識レベル、傾向を把握することで、対象、ポイントを絞った適切な教育が実施できています。



安全の成果

- 各種の取組みの結果、労働災害は大幅に減少しています。特に、機械災害の撲滅に向け、安全パトロールで把握した不安全箇所の改善を実施したこと、従業員への安全最優先とする教育の実施等の効果もあり、機械災害が減少、また、現場の5 Sを推進したことで転倒災害が減少しました。また、他工場での好事例や不安全箇所の水平展開により、会社全体として安全で快適な職場づくりにつながられています。

副次的効果

- 安全パトロール時に5 Sの状況を確認することで、モノの置き場や置き方が標準化されるようになり、職場の整理整頓が進みました。その結果、職場の安全性が向上するとともに、作業のムダがなくなり、生産性の向上にもつながっています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒防止対策
腰痛対策

危険の見える化

企業情報

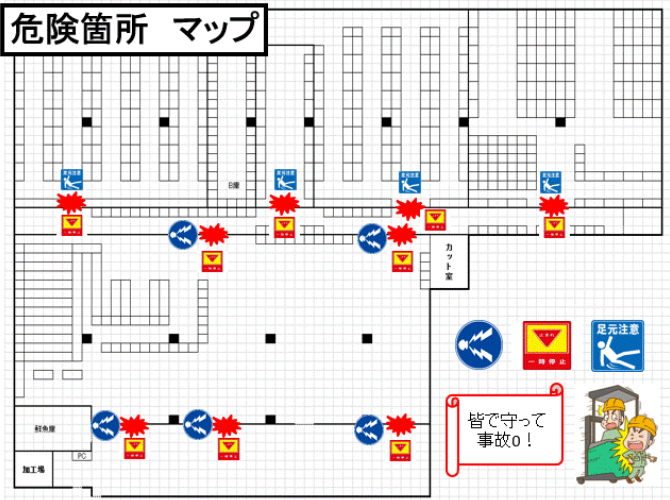
所在地：山形県
従業員：203名

背景

以前は作業を物流会社に委託していましたが、8年前から関連会社で作業を行うことになりました。会社が変わることをきっかけにして、山形丸魚の管理本部が主導となり労働安全に関する取組を強化してきました。

取組内容

1. 【類似災害を防止するための危険箇所の見える化】
- 職場内の危険が潜む箇所をあぶり出し、ハザードマップに落とし込みました。
 - 特に転倒危険箇所、フォークリフトとの衝突の危険箇所が多くリストアップされました。
 - 実際の危険箇所には注意喚起のポスター・シール等を貼り出しました。
 - 効果を高める工夫として、フォークリフトと従業員が衝突する可能性がある箇所ではクラクションによる注意喚起を実施しています。



2.【転倒防止対策のための5S活動の実施】

- 当社の職場では大量のゴミが発生します。そのゴミが原因で転倒事故が多く発生していました。またカゴ車やパレットが散乱することによっての衝突事故も発生していたため、5Sを徹底することで職場環境の改善に取り組みました。
- まずは5Sのポップを職場に掲示して、従業員の意識向上を図りました。
- ゴミの清掃方法や分別についても分かりやすくマップに落とし込みをしました。
- カゴ車、パレットの置き場を明確にして、通路の確保をして衝突事故を防止しました。
- 安全な環境を維持するため躰の担当を明確にして、清掃のルールや物の置き場所をルールを全員に守ってもらうように努めました。



3.【腰痛対策のための5つのルール】

- 当社では「無理な動作に注意」というポスターを職場に掲示して、従業員への注意喚起を行っています。
- ①中腰で作業を行わない。腰を下ろして商品を持つ。②方向転換は腰をひねらずに体ごと向きを変える。③一人で重い商品の荷下ろしは行わない。④パレットに乗って作業は行わない。⑤商品は1ケース以上持たない。
- 5つのルールを徹底して守ることで腰痛を訴える従業員は大幅に減少しました。

無理な動作に注意！

1. 中腰で作業は行わない。腰を下ろして商品を持つ。
2. 方向転換は腰をひねらずに体ごと向きを変える。
3. 一人で重い商品の荷下ろしは行わない。
4. パレットに乗って作業は行わない。
5. 商品は1ケース以上持たない。



安全の成果

- 労働災害の件数は減少傾向にあります。特に防止対策を強化した、フォークリフトと人の接触による重大な事故は無くなりました。

副次的効果

- 従業員の安全意識の向上により、フォークリフトによる対物事故が大幅に減少し、物損・修繕に掛かる費用も大幅に減少しました。
- 労働安全に対する取組が信頼獲得に繋がり、新規で取引を開始していただける企業様が増えました。
- 5Sを定着させるため躰の担当を明確化し、清掃のルール等を守ってもらうように教育を進めていった結果、従業員の成長に繋がり、責任感を持って仕事に取り組む人が増えました。

取材年月：2021年1月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

転倒防止対策

はさまれ・巻き込まれ対策

墜落・転落対策

企業情報

所在地：大阪府

従業員：18,221人

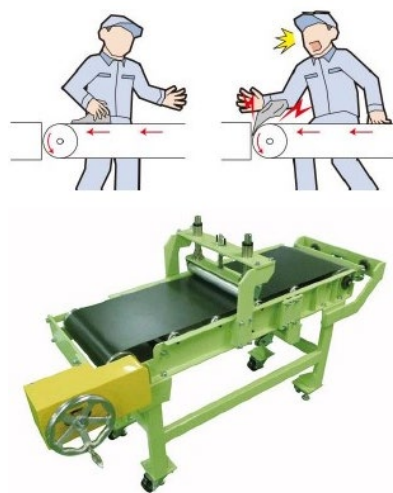
背景

当社は、安全の確保は企業活動の大前提であり、従業員の安全・安心無くして企業の存続と発展はないと考えています。従業員に対する責任として、「安全衛生基本方針」に基づき、労働災害の撲滅を目指しています。

取組内容

1. 【全階層に対する教育】

- 安心して働ける職場環境づくりを実現するため、安全衛生基本方針を設定し、中央安全衛生委員会を定期開催し、全社的な取組みを進めています。
- 各階層ごとの教育制度を設け、労働安全に対するトップセミナー（年1回）、職長セミナー（年2回）を開催。また、セグメント向け安全研修会として、農業食品グループ、物流グループに特化した安全研修会（30回以上）を開催しています。
- Web会議システムによるセミナー開催やVRや小型体感機を活用した安全体感システムによる安全体感教育研修の実施など、を導入し、教育の実施率の向上とつながりました。
- 全階層による教育を行うことにより、労働安全に対する意識変革へとつながったことで、5S、ヒヤリハット、発生源対策などの取組みの質が向上しました。



2.【食品製造職場の床面のドライ化推進による転倒防止対策】

- 食品製造職場は、製造アイテムの切替時、作業終了時の機械洗浄・作業台洗浄、床洗浄殺菌等で床が濡れる状況が多くあります。これまで床の濡れにより、滑って転倒する事故は大変多く発生して居りました。
- 転倒災害の被害の状況は、骨折(手足・腰)の大きなケガが多く、治癒まで長期間を要することがあり、転倒した周辺に機械装置等があると頭・首への被害の可能性もあります。また、後遺症が残り、今後の生活に支障を及ぼす状況も考えられます。まずは、床の濡れによる転倒防止対策実施は、大変重要なことと考え対策に取り組み実施して来ました。

(次頁に続く)

ドライ化床点検図



■ 床ドライ化推進の取組み方法

1) 職場を3エリアに区分

ドライ区 : 常に水を使用しない、床濡れがないエリア

常に乾燥状態を保つエリア、水を使用する所は、床に水を流さない工夫を施すこと

セミドライ区 : 機械洗浄等で床が濡れるが、床の乾燥状態を作り上げるエリア

床水濡れの都度ワイパー掛けを行い、床の乾燥状態を作り上げるエリア

ウエット区 : 容器等を持ち込み洗浄するエリア

出来るだけ床に水を流さない、側溝・排水溝に直接流す設備を施すエリア

2) 作業現場の床図面を用意し3エリアを色付け、併せて1m四方のマスを記入する

3) ドライ化監視者が、巡視で不適切な個所(マス目に赤色)を指摘、原因・改善の実施する

■ 推進の状況と効果

1) 作業者通路を迂回させる位置に製品表面洗い用シャワーボックスが存在、通路に水が流れる状態で有ったが、製造テストを繰り返し行い品質確保を確認、シャワーボックスを撤去出来た(本質的対策)

2) セミドライ区からドライ区への格上げも行われるようになった

3) 目標数字を設定して取組むようになった

※床面の濡れによる転倒災害は、今回の該当企業では7年間発生していません。

■ 転倒防止の重点対策推進の強化(推進中)

- ・安全靴：耐滑性・小指保護等、作業に適した靴の選定
- ・金属面：2液滑り止め塗装
- ・つまずきり個所：床の凸凹、段差、突起物、床の物
- ・滑る個所：傾斜、グレーチング、マンホール、床への落下物
- ・作業スペースの確保と作業エリア・通路の分け

月ドライ化まとめ表

11月	ドライ区			セミドライ区		
	床面積	濡れ面積	乾燥率	床面積	濡れ面積	乾燥率
○〇1	611	2	99.7	556	2	99.6
○〇2	632	3	99.5	428	2	99.5
○〇計	1243	5	99.6	984	4	99.6
◇◇1	930	7	99.2	30	0	100.0
◇◇2	807	0	100.0	0	0	0.0
◇◇計	1737	7	99.6	30	0	100.0
工場計	2980	12	99.6	1014	4	99.6

12月	ドライ区			セミドライ区		
	床面積	濡れ面積	乾燥率	床面積	濡れ面積	乾燥率
○〇1	611	2	99.7	556	1	99.8
○〇2	632	0	100.0	428	1	99.8
○〇計	1243	2	99.8	984	2	99.8
◇◇1	930	2	99.8	30	0	100.0
◇◇2	807	0	100.0	0	0	0.0
◇◇計	1737	2	99.9	30	0	100.0
工場計	2980	4	99.9	1014	2	99.8

12月度達成率
ドライ区は 0.3% 達成 セミドライ区は 0.8% 達成

セミドライ区 → ドライ区へ変更箇所
○〇冷蔵庫 136マス
○〇ルーム通路 60マス

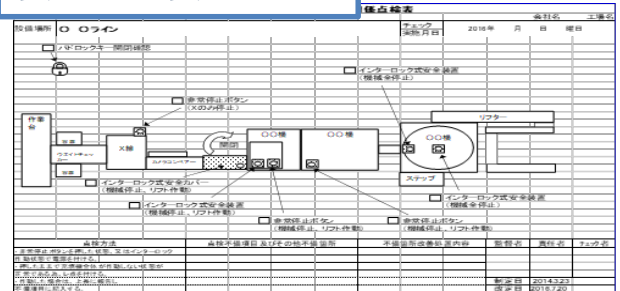
3.【食品加工用機械の安全対策によるはさまれ・巻き込まれ等の防止】

■2013年10月、食品加工用機械を対象とした「労働安全衛生規則改正」がスタートし、機械の危険な部分への覆いの設置、食品原材料の送給・取り出し時の運転停止などが義務付けられました。これまでの安全対策に加え加工用機械による「挟まれ・巻き込まれ」防止を重点対象とするリスク低減対策を強化、特に「調整の作業」及び起動しながらの「調整の作業」への安全対策にも注力し推進しています。

■改めての調査

- 1)すべての回転体（刃部）の全ノミネート調査
：巻き込まれのリスク・安全カバーの有無・工学的対策の有無
- 2)「労働安全衛生規則改正」の対象機械の調査
：原材料の送給・取出しの状態、蓋・覆い・囲い・柵の有無と工学的対策の有無
- 3)重点事項：「調整の作業」について
：調整の作業の有無とその内容
：駆動部を稼働しながらの調整の作業の有無
：起動の停止・錠の実行表示の実施有無
- 4)安全作業標準書とR A実施の状況確認

安全装置安全点検図



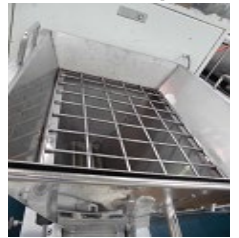
C V裏回転体覆い



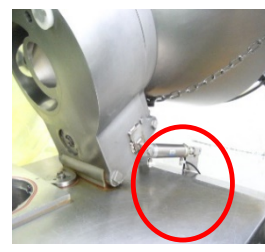
包装機刃の覆い



ホッパー上部格子



身体感知光センサー 重量緩和シリンダー スイッチに錠・表示



■主に覆い・囲いの開時に起動を停止する機能を付加（工学的対策 例）

- ・コンベアー裏の回転体：近接スイッチ付囲い（調整作業囲い開時、起動停止）
- ・練り物充填機：ホッパー底部に回転体、ホッパー上部に近接スイッチ付格子設置（格子を取ると起動停止）
- ・光センサーの活用：転落して回転体に巻き込まれを防止するため、上部に光センサー設置
：上下する棚等の前面に身体を感知する光センサー設置
- ・油圧シリンダー設置：重いホッパーを降ろすとき、機械本体との間に挟まれ防止するため、緩和シリンダー
- ・両手スイッチの採用：挟まれ・巻き込まれ部に手が行かない様に（両手スイッチ押し時のみ稼働）

※食品事業統括カンパニースタッフが、現場巡視、作業と低減措置部の安全確認を実施

■その他の安全対策

- 1)調整の作業時の起動停止、起動スイッチに錠を掛け、作業名の表示を掲げる。
- 2)安全装置の安全作動確認図を作成し、起動しないこと・確認忘れを防止した。確認点。
- 3)安全対策機械の作業とリスクの低減措置を撮影した動画を作成、各職場に横展開中。

4.【墜落・転落防止対策の推進】

- グループ内で墜落・転落の休業労災が、多く発生している状況です。特にグループ内物流関連が多い状況ですが、2019年2月の安全帯の名称が、墜落制止用器具と変わり、墜落を制止する器具が強化され、墜落制止用器具の規格が施行されたことを踏まえ、食品製造分野の墜落・転落へのリスク箇所及び防止対策の調査を行いました。

- 製造現場内及び屋外の設備・施設のすべて対象、調査
 - 1) 屋根上にある設備と作業内容の確認
 - 2) 2m以上の所の作業床の設置等の状況と「墜落制止用器具」の使用状況（作業床の端・開口部の状況）
 - 3) 作業場所が、昇降1.5m以上の所での作業内容と昇降方法及び安全な昇降措置対策の状況
 - 4) 昇降設備から作業場所への移動状況と安全対策の現状
 - 5) 安全作業標準書の作成有無等

■ 調査結果

屋根上、屋外の高所作業の命綱・墜落制止用器具使用、昇降状態の安全な昇降設備配備、室内の低～中程度の高さでの作業時使用器具など、安全に課題があることが判明しました。

■ 屋根上での主な作業

- ・雨トイの清掃、空調機・冷凍機の室外機清掃点検修理
- ・屋根修繕、給排気フィルターの清掃交換、雪下ろし、
- ・高架水槽点検清掃、污水处理施設の保守管理など

■ 墜落・転落防止安全対策の推進

実態調査の要約版を作成、企業トップ・安全衛生責任者への実態と安全対策推進理解説明

- 1) 墜落制止用器具のグループ内選定基準の作成を行った。
- 2) 低～中所転落防止基準（可搬式作業台、踏み台、足場台、脚立の使用基準）を作成した。
- 3) 屋根上作業の安全対策の具体的な実施基準作成の実施を行った。
- 4) 安全な昇降のための設備指針作成の実施を行った。
- 5) 対象事業場個別の課題と安全対策推進指針を作成した。
- 6) 現在、計画を立てリスク低減措置を実施中。

- 墜落・転落防止のため搬送可能なVRシステムを導入
限りなく実際に体感するシステム、「バーチャルリアリティ(VR)安全体感システム」を導入し、各職場に貸し出し、墜落・転落の体感を体験し、更なる安全意識の向上を促進しています。

屋根上の各種設備



屋根上の命綱



昇降安全対策



VRによる
体感体験



安全の成果

- 労働災害の件数は、休業災害は横ばい、不休業災害が大幅に減少し、全体で約 19%削減（2019年：2018年度比較）しました。

副次的効果

- 労働安全に対する意識づけが事業所の管理部門においても向上したことにより、労働災害発生原因を、個人の不注意として片づけるのではなく、会社の課題として捉えるようになりました。
- グループ全体(特に、カンパニー内)における労働災害に関する情報の共有化により、改善を図ろうとするようになりました。

取材年月：2021年1月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

お客様も従業員も安全に。全社の意識変革から改善へ。

(総合スーパー)

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫	切れ・こすれの防対策
転倒防止対策	火傷対策
墜落・転落防止対策	

企業情報

所在地：滋賀県
従業員：23,000名

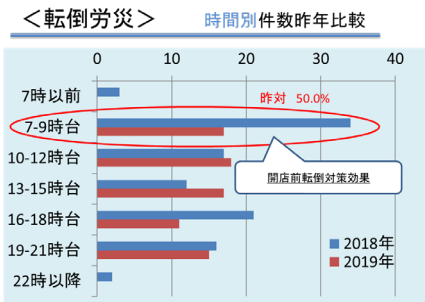
背景

- 店舗単位では3～5年発生していない店舗もあったが、全社としては年間約400件発生(毎日1件以上発生)。
- 毎日どこかの店舗で従業員の負傷事故が発生しており、その中の同様の事故については未然に防げる事故があるのではないかという担当者の気づきから対策を強化しました。

取組内容

1. 【全社的な取組みと社員の意識変革】
- 社長に現状を伝え、啓蒙活動に参画してもらいました。
 - 中央労働安全委員会の組織メンバー見直し、営業推進メンバーなど巻き込んで、再組織しました。
 - 管理部門だけで労災対策をするのではなく、営業部やライントップを巻き込むことで効果のある取組みを実現。特に、現場である商品部の理解と協力が重要でした。(小売りの特徴)
 - 社内掲示板(イントラ)に、当時無かった従業員の労働災害の発生状況を追加して見える化をしました。
 - 検証実験、アンケートなどによるデータ分析により、誰にでも分かる仕組みとすることを意識して進めています。特に営業部に分かるよう、売り上げに直結する労働損失(MH)を示して対策を実施しました。

2. 【転倒防止のための意識づけ】
- 時間別発生頻度を調査すると、開店前の転倒事故が最も多く発生していました。
 - 開店前BGM放送で、社長本人の声で注意喚起のアナウンスを始めたところ、開店前である7-9時台の転倒労災の発生件数が、昨年と比較して50%減と大きく改善しました。
 - 転倒予防として、年齢や性別に関係なく誰でもその場で出来る「つま先立ち体操」のe-ラーニング教材を作成し、各拠点での教育として展開しました。
 - 現場の作業の実態を正確に把握し、従業員に対する意識づけのために、社長による注意喚起BGMを発信するなど、全社的な取組みを意識しました。



「つま先立ち体操」e-ラーニング配信



3. 【踏み台導入と高所作業ルール設定による転倒防止対策】

- 事故の起きやすい脚立の高さを調査分析した結果を踏まえ、事故発生頻度が高い80cm未満の脚立の使用を禁止し、標準のツールを踏み台としました（614台導入）。
- 80cm高さ以上の脚立作業は、高所作業とし、2人作業・ヘルメット着用等のルールを設定して、作業における不安全行動の禁止を徹底しました。
- 売り場には女性も多く、脚立上での作業に不安を感じることも多かったのですが、より安全に作業できる踏み台により、安心な職場になりました。

<平和堂における脚立と踏み台の定義>



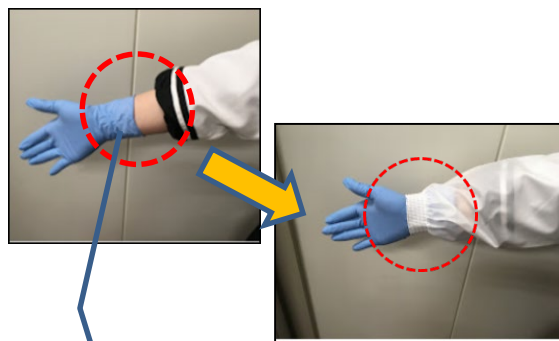
スカートでも乗りやすいです♪
安定感もあります♪



- ・正しい向きで使用できる
- ・またぐ必要がないのでスカートでも作業しやすい
- ・3段であれば上の商品まで手が届く

4. 【耐熱手袋とフライヤーの導入による火傷対策】

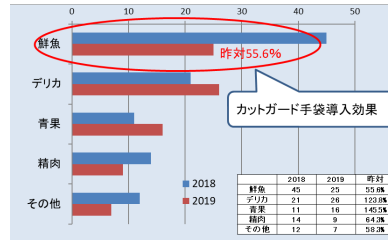
- フライ時の油の飛び跳ねが直接手首に触れないようニトリル手袋着用を義務化し、フライ作業時のマニュアルを改定しました。
- 腕を伸ばした時に腕の一部が露出してしまったところに火傷をすることが多かったため、作業着の袖と手袋の間を腕力バーにより保護することにより、火傷を防ぐことができました。
- デリカ部門のフライ作業時の火傷事故が頻発していました。作業そのものを見直し、作業性を損なわず安全に作業できる対策を意識して取り組みました。
- 一部の店舗を自動フライヤーに変更することで、火傷しやすい作業が減り、火傷事故の発生件数が減少するとともに、商品品質のバラツキ低減(商品品質向上)、人手がかからない(生産性アップ)、食用油の消費量が減少(ロス削減)、など副次的効果がありました。



腕を伸ばした時に露出した腕に油がかかって火傷する労災が多いため

5. 【耐切創手袋の導入とマニュアル作成】

- 現場の作業のタイプに合わせて、鮮魚部門にはカットガード手袋、青果部門には耐切創軍手を導入しています。
- カットガード手袋の導入により鮮魚部門は、切創労災が大幅に低減しました。
- 自社生鮮技能センターにおいて包丁取り扱いの注意点をまとめたマニュアルを作成し、安全教育シートに追加し、安全教育を実施しています。
- 耐切創手袋は作業性の理由から、現場への定着が課題ですが、管理部門と商品部が連携して各種会議で説明を行い、継続的な教育を行っています。



安全の成果

- 中央労働安全委員会が主体となり、営業部門と連携し、全店的な労災対策を実施。
- 業務災害359件→300件(2018年→2019年)、16.5%減
- 休業日数：1492日(昨年比40%減)、労働損失：8801MH(昨年比37%減)

副次的成果

- 幹部の意識が変わり、中央労働安全委員会を通じて関心が高くなってきている。
- 営業表彰で営業成績以外の安全対策で店舗表彰あり。会社の業績と同様に、顧客と従業員の安全対策への取組みが重要性であることを啓発された。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

転倒防止対策

労働安全に関するコミュニケーション

切れ・こすれ防止対策

企業情報

所在地：東京都

従業員：約18,000名

背景

- 過去に発生した労働災害を教訓に、労働災害を削減したいという思いから。

取組内容

1. 【雇入れ時の教育の工夫】

- 労働災害の発生頻度が高い、入社間もない社員への安全意識向上のために教育資料「初めましてサミットです」を作成しました。この冊子を使って教育しています。
- この冊子は、教育後も見てもらえるように極力、写真を使って分かりやすい工夫をしています。
- 教育に加えて、新人が労働災害に遭いやすい月（例えば入社後落ち着いてきた6月など）に注意喚起を行っています。



2. 【転倒防止のためのバックヤードの5S】

- 台車が放置されていることで、躓き、転倒することを予防するためバックヤードの5S活動を実施しています。
- 商品種類別に分けた台車置場に白線を引き、台車を定位置化しました。また、区画ごとに何の台車の置場かを分かるように表示しています。
- 白線は、各台車の定位置化だけでなく、物の置場と通路を区画の明示して、通路への台車の放置をなくしました。
- 今は、決められた台車数しか置けないように区画して、決めた台数を超えると過剰発注であることを一目で分かるようにしました。結果的に廃口の低減にもつながっています。



3. 【注意喚起の店内放送】

- ルールの徹底、確実な取組みと意識の定着を目的に2019年から店内アナウンスを実施しています。
- 開店前に切傷防止対策として耐切傷手袋着用の喚起、腰痛防止対策としてサミット体操や無理な体制の作業予防喚起、慌ただしくなりがちな開店直前には、走って転倒ないように注意喚起を3回に分けて行っています。特に、ケガの多い切傷予防の喚起は3回すべての放送で注意喚起を行っています。

4. 【切れ・こすれの予防対策】

- 当社の労働災害発生件数 1 位の切れ・こすれを削減するため、2017 年から耐切創手袋を各職場へ配布しました。
- 店舗別の労災発生件数の見える化、店長連絡会での安全の話を定例化するなど、店長の安全意識を向上させ、従業員に展開する取組みを継続して実施しています。
- 今は、労働災害が発生した場合、店長とケガした従業員に本社担当部門が入って原因と対策のコミュニケーションを行っています。

鮮食作業場「安全・衛生保護具」使用一覧表

項目	耐切創手袋	滑り止めの靴	安全ヘルメット	安全眼鏡	安全靴	安全ヘルメット	安全眼鏡	安全靴
調理	○	○	○	○	○	○	○	○
包装	○	○	○	○	○	○	○	○
洗浄・消毒	○	○	○	○	○	○	○	○
接客	○	○	○	○	○	○	○	○
清掃	○	○	○	○	○	○	○	○
倉庫作業	○	○	○	○	○	○	○	○
運送作業	○	○	○	○	○	○	○	○
倉庫整理	○	○	○	○	○	○	○	○



5. 【安全の注意喚起の表示】

- 過去の労働災害が発生した場所やルールの徹底が必要な作業場など把握しているリスク箇所に注意喚起の表示を行っています。
- 切れ・こすれが起こる作業場には、インパクトのある表示をして意識付けを行っています。



安全の成果

- 労働災害が徐々に減ってきており、大きな災害は発生していない。
- 店長の安全意識が向上している。

副次的効果

- 安全を目的とした定位置管理や作業ルールの遵守の取組みが、異物混入防止など食の安全につながった。
- 労働災害が減ったことで休業が少なくなり、シフトが組みやすくなった。
- 労災保険料の負担が軽減された。

取材年月：2020年10月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全推進組織

安全パトロール

安全衛生教育の工夫

リスクアセスメント

企業情報

所在地：東京都

従業員：12,452名

背景

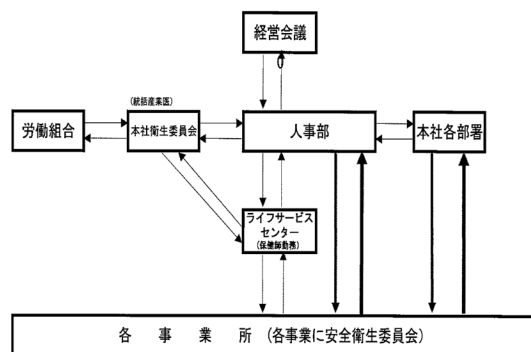
- 安全衛生委員会で話し合う内容や安全の取組みが135ある店舗ごとにバラバラで、全社的な情報の共有や取組みの徹底が不十分だったため。

取組内容

1. 【安全推進組織体制】

- 店舗ごとに個別的だった取組みを組織的かつ徹底的に実施するために、本社主導の推進組織体制を構築しました。
- 1年間の安全衛生計画を本社で作成し、実施事項の管理を人事部で実施することで取組みの徹底度を上げています。
- 安全衛生委員会議事録など、報告を求める主要な取組みはフォームを本社から発信し、内容を統一しています。
- 文書の報告だけでなく、店舗監査を実施して現地、現物で確認しています。
- 取組みが多岐に渡るようになったため、産業医・保健師を増員し、2014年に「ライフサービスセンター」を立上げ、きめ細かく対応しています。

全社安全衛生関係図



2. 【産業医巡視の工夫】

- 産業医の専門知識と職場の安全に関する客観的評価を積極的に頂くために、健康や体調の面談だけでなく職場巡視に積極的に取組んでいただける産業医の先生を探しました。
- 健康診断をお願いしている先生からの紹介だけでなく、医療派遣会社を利用しました。紹介頂いた先生と面談し、現在は、4人態勢です。
- 年間の安全衛生計画で巡視する店舗を決め、本社スタッフも同行した産業医巡視を実施しています。
- 巡視で指摘された事項は巡視店舗だけでなく、本社衛生委員会で確認し、店舗安全衛生委員会に改善要請を行っています。

落下事故要因

・酒類缶製品冷蔵ケース



駅前立地の需要とクロスリールバックルームの許容量から補充用に置かれている。しかし、パラ缶の2段階は危険の指摘

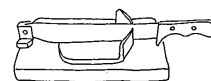


3. 【安全作業に関する冊子と教育】

- 20年以上前から、安全作業に関する注意点などを含めた冊子「あなたのいなげや」を全従業員に配布しています。
- この冊子を使って、雇入れ時の教育などを行っています。

あなたのいなげや
ポケットガイドブック

VII. かばちやカッター



1. たいらで安定した場所にかばちやカッターを置く。
2. 切る側の手は、刃に当たらないよう注意して、一度かばちやに刃を当ててからゆっくり下ろす。

- 店舗を管轄する労働基準監督署から、リスクアセスメントについて、よくご指導を頂いていますが、なかなかレベルアップしないことが問題でした。
- 本社の労働災害実績のデータベースから全社の傾向を分析して、リスクとなりうる項目を選定した表を店舗へ配布しています。
- 各店舗にリスク評価を実施してもらい、提出してもらっています。
- 提出してもらったリスク評価の結果を本社で集計し、講じるべき対策の優先順位を決めて、実施しています。
- 店舗からは、有効なリスクアセスメントが効率的にできると好評です。
- 労働基準監督署からは、その有効性を評価頂き、優良事例として管内の企業へ横展開できないか検討頂いています。

[illegible]

- 活動当初は、効果が出て労働災害は減りました。今は、定年延長により高年齢労働者の増加で転倒災害が増えるなど、新たな課題もあって労働災害件数は横ばいです。
- 労働安全衛生の専門部署を設置したことで、全社的に健康に対する意識が向上しています。例えば、治療が必要な従業員には、専門部署所属の保健師による迅速なアドバイスするなどの取り組みを行っています。

取材年月：2021年1月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全衛生方針の表明

危険の見える化

企業情報

所在地：東京都

従業員：100名

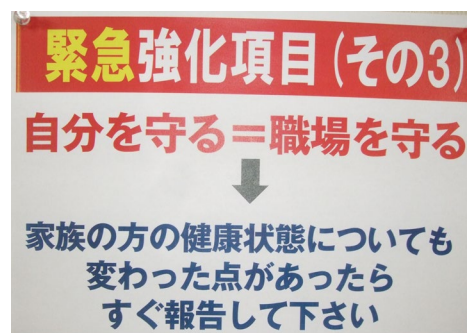
背景

労働安全に取組む直接的なきっかけはありませんが、LPGの供給をはじめとした社会インフラを支える企業として、スーパーマーケット事業では、地域の「食」を支えるためにお客様、従業員の安全確保と維持の取組みを日常的に取組んでいます。

取組内容

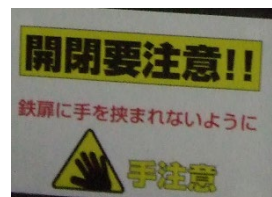
1. 【トップの安全衛生への意志表示】

- 従業員がケガや病気で働けなくなると地域の「食」を支えることができなくなるという考え方から、そうしたリスクに徹底して対策を講じています。
- 「従業員を絶対を守る姿勢」を伝達と具体的取組で示しています。
- 朝礼や勉強会でスーパーの責任者が安全衛生に関する考えを必ず話し、従業員に周知しています。
- 最近では、本社及び全店舗の新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています。対策は、店舗内だけでなくバックヤードや休憩室など感染リスクのある個所まで徹底しています。
- 徹底した取組みが評価され、マスコミにも取り上げていただきました。
- こうした会社の本気の取組みを継続してきた結果、外部からの評価も相まって、従業員の意識の啓蒙につながり、安全な風土をつくることができました。



2. 【危険の見える化】

- 多店舗展開しているため、職場環境の把握、従業員との対話を常にすることができないため、危険な作業や場所には徹底的に掲示して注意喚起を行っています。
- 特に、過去に労働災害が発生した場所には、危険の見える化に取り組んでいます
- 従業員は、危険な作業・場所では注意深く行動する意識が根付きました。



安全の成果

- 平均勤続年数が約 15 年と従業員の定着率が高く、安全意識がしっかり根付いている
- 結果的にここ 10 年間、労働災害が起きていない

副次的効果

- 長く働いていただいている方が多く、人材確保には困らなくなった
- 労働災害で休業することがほとんどないため、計画通りの生産性が維持できるようになった

取材年月：2021年2月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

危険の見える化

企業情報

所在地：東京都
従業員：42,453名
(※アルバイト含む)

背景

- 類似災害が発生している事をきっかけにして、2018年から店舗内にハザードマップを掲示し、労働安全の取組に、より力を入れました。

取組内容

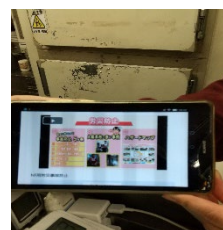
1. 【類似災害を防止するためのハザードマップの掲示】

- 火傷、転倒、切創の類似災害を防止するために、店舗内のどこに危険が潜んでいるのか、またどこに注意すればよいのかが分かるように一枚のハザードマップにまとめて、掲示をしています。
- ハザードマップを見やすくするために、各項目を色分けして掲示しています。
- 実際の危険箇所にはシールを貼って、併せて注意喚起も実施しています。
- 外国の方が見ても分かりやすいように、シールにはイラストを用いています。



2. 【労働安全教育を目的としたタブレット端末による教育】

- 入社3ヶ月以内の方が事故に遭う可能性が高いことから、特に初期教育には力を入れています。入社初日に6分間の映像による教育を義務化しています。
- 外国の方のために、数か国語のバージョンを作成しています。



3. 【その他の活動】

- 労働時間の管理、長時間労働の廃止
- 安全衛生チェックリストの運用
- 事故の事例と対策の共有

安全の成果

- ハザードマップ・注意喚起のシールを掲示することで、管理者が新人の教育を実施しやすい環境を作れました。
- タブレット端末による教育は労働災害の減少にも効果的ですし、従業員の安全意識の向上にも繋がっています。

副次的成果

- 誰もが働きやすい職場にするための取組を公表・実施することで、採用活動がスムーズになり、人財の確保に繋がっています。

取材年月：2020年10月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です

取組みのカテゴリ

火傷防止対策

危険の見える化

切れ・こすれ防止対策

企業情報

所在地：東京都
従業員：1,638名

背景

- 会社の仕組・ルール作りを行う「店長プロジェクト」は1994年より毎月活動が続けてまいりました。2017年には新たに「業務改善・労務改善プロジェクト」が発足。このプロジェクトにて労災の削減目標を設定したことをきっかけに、店長達が中心となり本格的に労災の防止活動に取り組んでいます。

取組内容

1. 【火傷を防止するためのスプーサーバー導入】

- スープの移動作業を廃止し火傷を防止するため、全店舗でスプーサーバーの導入を約1年かけて実施しました。

2. 【危険箇所を見える化するためのハザードマップ作成】

- まずは店長・従業員にアンケートを実施して危険箇所の把握をしました。店舗毎にレイアウト・危険箇所にバラツキがあるため、あくまでも店長主体で作成しました。



3. 【切創を防止するための危険作業の廃止】

- 大和イモの皮むき・芋すり作業・白髪ねぎのカットをセントラルキッチンで実施することで、店舗内で包丁を使う作業や危険を伴う調理機器を極力削減しました。



安全の成果

- スープに起因する火傷事故と、包丁・調理機器に起因する切創事故は激減しました。
年間労災発生件数
- 18件⇒12件へ減少

副次的成果

- 経営の目的である「働く仲間の幸せ」を追求し、誰もが働きやすい職場にするための取組を公表・実施することで人財の定着にも繋がっています。
- 労災防止活動に限らず、会社・店舗の仕組みやルールを店長自らが考えて実践することに拘ってきました。その結果、トップダウンで落とし込みをするよりもはるかに労働安全の取組が浸透しましたし、店長始め社員達が成長してくれています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒対策

火傷防止対策

労働安全教育の工夫

企業情報

所在地：東京都
従業員：

背景

役員・幹部も全員が店舗勤務を経験しているため、労働安全に対する意識は当然高い企業だと思っています。また労働組合との関係性を大事にし、連携しながら労働安全活動に取り組んでいます。またコロナ禍でアルバイトの採用に変化が現れ、人の入れ替わりが発生したことを踏まえて、労働安全の取組を強化しています。

取組内容

1. 【転倒防止のためのキッチンシューズの交換の適正化】
- キッチンシューズの減り具合が進んでしまうと転倒事故につながります。当社では適切に新しいものと交換できるように、交換時期の目安写真を店舗に掲示して、交換を促進しています。



2. 【火傷防止のためのIHヒーターカバーの導入】
- IHヒーターの上に誤って鉄製のモノを仮置きしてしまい、それが温まって火傷に繋がる事故が複数発生していた為、カバーを導入し、対策を実施しました。



3. 【労働安全教育のためのタブレット端末導入】
- 正しい作業手順の把握、危険箇所の把握、5S活動などの教育を実施することで労働災害防止に努めています。2016年よりタブレット端末を導入し、入社時とその後の経験に合わせて受講項目を決めて全店舗で教育を継続的にを行っています。



安全の成果

- キッチンシューズの交換時期の明確化により、転倒災害は減少傾向にあります。また、IHヒーターカバーの導入で、IHヒーター起因による火傷事故はゼロになりました。

副次的効果

- タブレット端末による教育（労働安全以外のものも含めて）を実施して、効率的に教育ができるようになりました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

従業員の健康保持・増進

労働環境の改善

安全衛生方針の策定

企業情報

所在地：東京都

従業員：39,985名

背景

店舗数の増加をきっかけに、2017年に安全衛生方針を定めて労働災害防止に向けて取組をさらに強化しました。

取組内容

1. 【労働災害を防止するための健康保持・増進】

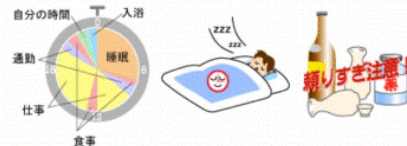
- 心身共に健康であることが労働災害を防止するには必要不可欠であると考えています。CEOから健康保持・増進に関するメッセージも定期的に配信しています。産業医や専門家から配信してもらうこともあり、コロナ禍の精神的な乗り切り方のポイント等も掲載しています。従業員から大変評判の良いものとなっています。

「健康な心」を保つ -身体面-

● **時間のコントロール** 忙しい一日の中で、少しの間だけでも趣味に時間を費やしたり音楽を楽しんだりするなど、自分自身がリラックスできる「**自分のための時間**」を持つようにしましょう。なかなか思い通りにはいきませんが、目標のタイムスケジュールを立てることから始めてみませんか。

● **良質な睡眠をとる** 睡眠の乱れは生体のリズムを崩し、ストレスに弱い体を自ら作ることに繋がります。良質な睡眠は、時間もさることながら眠りの深さが大事です。就寝前に血の巡りを良くする軽いストレッチやアロマオイルでマッサージする、音楽を聴くなど、寝室・寝具の環境をリラックスできるように整えたりすること、また昼間に適度に運動する(体を動かす)などの工夫も必要です。

● **アルコールに頼らない** 適量を超える飲酒は、止めたくてもやめられない「**依存症**」への引き金となりますので絶対にやめましょう。睡眠薬は医師と相談しながら生活改善とともに上手に使いましょう。



「健康な心」を保つ -心理面-



● **完璧主義を捨てよう!** 何事もきちんとやることは大切ですが、人間ですから、全てを完璧にできるわけではないのです。少し肩の力を抜いて取り組み、心にゆとりを持つことが大切です。

● **思考を柔軟にしよう!** 自分が掲げた目標と現実のギャップはストレスを生みやすいものです。アプローチの仕方を変えることにより目標を少し下げ、達成率を上げ達成感を味わうことが次のSTEPに繋がることもあります。考え方を柔軟にし、別の手段を考えることも必要です。

● **過去にこだわらず前向きに考えよう!** 物事を悲観的に考えることはストレスをマイナスに変える要因です。過去に戻ることはできないので、未来をプラスの方向で考える習慣を身につけましょう。

● **一人で抱え込むのはやめよう!** 悩んだ時には、一人で抱え込まず人に相談することも大切です。物事の受けとめ方は人により異なるので、考えもつかなかった解決法を生むこともあります。仕事でも何でも一人で抱え込むことで、許容量を超えてしまうとストレスに繋がります。人に任せることは任せて、成果を分かち合うことも大切なことです。

2. 【従業員にリラックスしてもらうための労働環境の改善】

- 休憩時には心身ともにリラックスしてもらうためにバックルームマネジメントという取組を実施しています。5S活動や、材料置き場の変更により、休憩スペースを拡大して、より良いコンディションで働いてもらうように工夫しています。

3. 【安全意識向上のための安全衛生基本方針の策定】

2017年より、以下3点の項目を基本方針に定めて従業員の安全意識の向上に努めています。

- 心とからだの健康維持増進を支援する
- 安全衛生の目的を理解する
- 安心安全な店舗環境をつくる

安全の成果

- 従業員のこころとからだの健康を保持・増進する活動と作業負担の軽減を図り、労働災害は減少傾向にあります。

副次的効果

- 従業員の健康維持と、労働安全取組、作業負担の低減に取り組むことで、接客する時間を増やし、顧客満足度の向上に繋げることができました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

火傷防止対策

危険の見える化

労働安全教育の工夫

企業情報

所在地：東京都

従業員：16,488名

背景

労働災害防止の活動は実施していたものの、労働災害の件数は横ばい状態が続いていました。そこで2015年に安全方針を策定して活動を強化しました。まずは、災害の型として多かった切創とヤケドの防止に取り組み、その後、労災件数の多い店舗を集中的に改善するよう努めました。

取組内容

1. 【火傷防止のためのパスタスチーマー導入】

- 店舗で行う危険作業を廃止し、別の方法に置き換えて安全を確保するように努めました。パスタをゆでる際の湯気やしびきによるリスクを無くすために全店でパスタスチーマーを導入しました。



2. 【類似災害を防止するための注意喚起ポスターの掲示】

- 事故の型として多かった転倒・切創・火傷・腰痛を防止することを目的として、危険箇所や作業手順の見える化を実施しています。注意喚起のポスターは、繁忙期前のタイミングで、イラストや内容を変更し、新鮮な状態にするなどメンテナンスを実施することにより、ポスターの風化を防止しました。



3. 【労働安全教育のためのEラーニング導入】

- 2015年からタブレット端末でのEラーニングを導入し、紙の作業マニュアルは廃止しました。初期研修や調理の手順などすべてタブレット端末で効率よく学習できるため、教育にかかる時間が短縮されると同時に質の高い教育が可能となりました。

安全の成果

- 類似災害の発生は近年減少傾向にあります。

副次的効果

- パスタスチーマー導入前はオーバーボイルが発生してしまうことがあったが、導入後は無くなりました。またパスタの硬さにムラがなくなり、品質の向上に繋がっています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

転倒対策

火傷防止対策

切れ・こすれ防止対策

企業情報

所在地：東京都

従業員：27,000名

背景

もともと安全が第一という考え方で労働安全活動に取り組んでいましたが、安全衛生委員会に新たにグループ企業からも参加者が加わったことで、良い事例の共有が進み、さらに労働安全活動を強化することができました。

取組内容

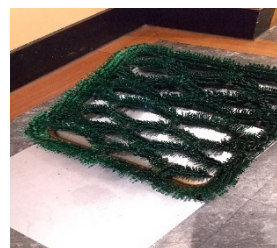
1. 【転倒を防止するための5S、衛生タイム】

- 厨房を5つのチームに分けて1時間に1回、1つのチームが衛生タイムを実施します
- 職場内放送で指定されたチームは作業を止めて、作業台・床を清掃・消毒します



2. 【転倒防止のための靴底ブラシの導入】

- 転倒の防止を目的として、キッチンシューズの管理に拘っています。特に靴底を徹底的にきれいにしないと、転倒の原因が職場に広がってしまいます。キッチンシューズの底に米などの食材が入り込んでしまうと転倒の原因になるため、靴底ブラシを導入しました。



3. 【火傷防止のためのアームカバーの導入】

- 油跳ねによる火傷防止のためにアームカバーを導入しています。揚げ場の従業員は必ず着用しています。



4. 【包丁による切創を防止するためのフィンガーガードの導入】

- 包丁を持たない手には必ずフィンガーガードの着用を義務付けています。



安全の成果

- 類似災害の発生は近年減少傾向にあります。特に転倒災害は減少しました。

副次的効果

- 地域に根付く店舗の評判は、近隣に住む従業員から伝わる情報が最重要だと考えています。衛生タイム等の徹底した取り組みを実施することにより、はま寿司は労働安全衛生に厳しく取り組んでいる情報が評判となり、企業のイメージアップにも繋がっていると考えています。

取材年月：2020年11月

* 上記取り組みは、当該企業の労働安全の取り組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロール

KYT

企業情報

所在地：東京都
従業員：27,238名

背景

当社は企業や病院・高齢者施設、学校、スポーツ施設などで飲食を提供する業務であるため、施設ごとに労働環境や危険な場所が大きく異なります。また、人財の高齢化もあり、各施設に応じた労働安全対策が求められています。当社では、これまで労働災害発生後の再発防止に注力してきましたが、思ったような効果が認められなかったため、新たに労働災害発生を予防するための取組を実施しました。

取組内容

1. 【危険を発見し災害を予防するための安全パトロール】

- 安全衛生スーパーバイザーによる安全パトロールを定期的を実施し、各事業所の食品・労働安全の状況確認と指導を行っています。安全パトロールによって発見されたリスクと実施された予防策は、WEBシステムによって全事業所が閲覧できます。他の事業所の事例を共有することで災害予防の意識向上に繋がっています。



2. 【職場に潜む危険を把握するためのKYT】

- 職場で「やってはいけないこと」を自ら考えて身に付けることが重要です。職場に潜む危険な箇所や状況を把握するために、ハザードマップを作成し、危険予知トレーニング(KYT)を実施しています。入社時から繰り返し行い、継続することで、従業員は災害防止には安全な作業方法(手順)が重要であることを学びます。



安全の成果

- 危険な箇所をノンスリップテープなどで表示することで【見える化】を行い、視覚的に危険箇所を知らせることで、従業員はその場所で安全行動をとるようになり、意識の変化が生まれています。
- 危険予知トレーニングを行うようになってからは、従業員の安全意識が高まるだけでなく、各事業所が主体的に危険箇所を共有し、危険作業の見直しに取り組むようになるという好循環が生まれています。

副次的効果

- 安全パトロールや5Sの活動が定着することで、モノを探すなどの手間の削減や正しい手順で作業を行えるようになり、結果として異物混入の件数は減少し、食の安全にも繋がっています。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

安全パトロールの実施

労働安全に関するコミュニケーション

企業情報

所在地：東京都
従業員：3,752人

背景

経営体制の変更後、労働安全の取組を強化しました。安全・衛生・改善推進室の人員を増員し、安全パトロールにマンパワーをかけました。軽微な事故もすべて会社に吸い上げて、改善策を実施し、各事業所に展開しています。また事故を未然に防ぐ予防的管理にも力を入れてきました。

取組内容

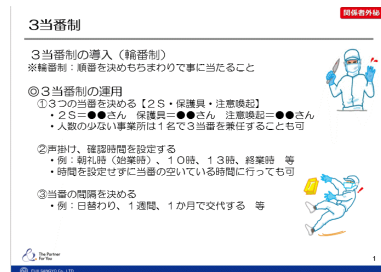
1. 【表彰される職場にするための安全パトロール】

- 事業所が多数あり、それぞれの労働環境が異なるため、安全・衛生・改善推進室主導による安全パトロールには重点を置いています。評価を点数化し、順位をつけて上位の事業所に表彰を行っています。また、合格点以下の事業所にはイエローカードを出して改善させるメリハリをつけ、安全衛生が浸透するように工夫しています。



2. 【安全意識を継続させるための注意喚起】

- 各事業所で労働安全に対する注意喚起を輪番制にて実施しています。2S（整理整頓）当番、保護具当番、注意喚起当番の3当番を設定し、それぞれ交代制で実施しています。時間帯により、業務内容が変わり、労働安全に対するリスクも変化します。当番は各事業所のスタイルに合わせて注意喚起にメリハリをつけて運用しています。



安全の成果

- 安全パトロール、輪番制の注意喚起により、従業員の安全に対する意識は向上しました。現在、転倒等による休業を伴う労災事故は減少傾向にあります。

副次的成果

- 輪番制の実施により、職場内でコミュニケーションを取る機会が増えて、チームワークが向上しました。その影響で、副産物として労災事故の減少以外にも、誤配膳のミス等が減少するようになりました。

取材年月：2020年11月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。

取組みのカテゴリ

労働安全教育の工夫

交通事故

労働安全に関するコミュニケーション

企業情報

所在地：東京都

従業員：9,650名

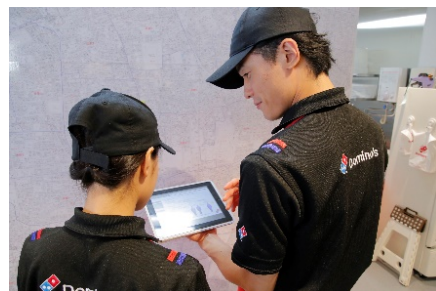
背景

創業当初から労働安全の確保については最優先事項として取り組んできました。全日本デリバリー業安全運転協議会の立ち上げにも尽力いたしました。安全もサービスの一部として捉えることで、これからも交通事故の撲滅に向けて取り組んでいきます。

取組内容

1. 【事故を起こさないための初期教育】

- 入社後は、e-ラーニングを受講してもらい、安全運転に関する知識、意識、技術を徹底的に学びます。その後、OJTを実施して、店長が許可をして初めて1人で配達を実行できるようになります。e-ラーニングでは良い事例と悪い事例を学ぶことで効果を高める工夫をしています。安全と美味しいピザを届けることが我々の役割・使命だと考えています。



2. 【安全意識向上のための宣言】

- 当社では6つのやさしさを持ってサービスを提供することを宣言しています。また社員・スタッフ全員がどうやって安全運転するのかを自ら考えて宣言しています。
- ①人にやさしい ②地域にやさしい ③環境にやさしい
④車両にやさしい ⑤ピザにやさしい ⑥あなたにやさしい



3. 【リスク低減のためのe-バイク導入】

- 現在、全車両の三分の一は電動式自転車（e-バイク）となっています。通常のバイクに比べて事故のリスクは格段に下がります。



4. 【整備不良を無くすための車両チェック】

- 整備の方法についてもe-ラーニングで正しく学びます。そして、その日に最初に運転する車両は必ず車両チェックを実施します。



安全の成果

- 近年の労災事故は減少傾向にあります。

副次的成果

- e-バイクの導入により、自動二輪の免許を持たない方の採用が増加し、人材の確保に繋がりました。
- 安全にサービスを提供し続けることが、企業イメージの向上に繋がると考えています。

取材年月：2020年12月

* 上記取組みは、当該企業の労働安全の取組みの一部です。